

【認知症対応型共同生活介護】

作成日 平成21年11月21日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572213809
法人名	有限会社グループホーム 楽園
事業所名	グループホーム 楽園
所在地	山本郡三種町大口字上の沢48-1 (電話) 0185-85-4761
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年11月20日

【情報提供票より】 (21年 11月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (11月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柳谷内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者が町おこしにつながればとスタートした事業所である。地域住民との繋がりが強く、運営推進会議の中で、地区の老人クラブの会員に認知症の介護について講話を行う等、事業所の機能を地域住民に活用してもらうように努めている。運営者兼管理者の強力なリーダーシップの下、職員同志も同じ想いを共有してチームケアの向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回評価で特に改善項目として挙げられた点はないが、調査員との話し合いの内容を、更にサービスの向上に努めていくように努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>全職員が自己評価と外部評価を実施する意義を理解して、協力して自己評価を実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>地包括支援センター職員、民生委員、自治会長、家族・利用者等が参加し2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。利用者の生活ぶりや町内会の行事への参加等について協議している。協議された内容は、サービスの質の向上に繋げるよう努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>運営推進会議には、利用者と家族も参加しており、その場で家族の意見、要望等を伺い、今後の運営に活かしている。また、玄関には意見箱を置き、匿名で意見を出せるように配慮すると共に、日頃から気軽に家族と連絡出来る体制になっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>日頃から近所の住民の差し入れを頂いたり、町内会の行事に参加したりしており、地域に密着した事業所になっている。</p>
	<p>重点項目④</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民とのつながりを大切にしており、運営者兼管理者自らが経験した実践を下にして「感謝、信頼、おもいやり」「先祖の恩は介護でおくる」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールや事務所に理念を掲げており、運営者兼管理者は、日頃から職員に話してその思いを共有して実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民から季節の野菜を差し入れて貰ったり、散歩に出掛けて挨拶を交わしたりして、地元の人々との交流が盛んである。又、町内会の祭典では、郷土芸能の「とおひ踊り」がホームを訪れて、子供たちとも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者兼管理者は、職員と共に評価を実施する意義を理解しており、それを活かして更に改善するように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、ホームの現状を報告して、利用者、家族や、自治会ら参加者の意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者兼管理者は、気軽に町役場を訪れ、町の担当者に相談できる体制になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の生活状況やおこずかいの出納状況を報告している。又、健康状態が変化した場合も迅速に、家族に連絡を取る体制ができています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、その他にも面会に訪れた際に職員が、家族に意見を出して貰えるように声かけしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者が管理者を兼ねており、代わった新しい職員と利用者が今まで通りの良好な関係作りが出来るように指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者兼管理者は、自ら積極的に認知症介護に関する研修に参加しており、それを職員に伝えている。今後は経験の浅い職員もさまざまな研修に参加するように計画している。		今後は他の職員が外部の研修会に参加し、研修内容を報告する等、職員全体のレベルを上げ、更にサービスの向上に努めるように希望する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内のグループホーム連絡協議会に加入している。町内の同業者間で年に数回会議を行い、互いのサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	今までの生活ぶりを家族より十分に聞き取り、本人が安心して生活できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者と一緒に食事作りをしたり、絵を描きながら、昔話を伺い、学び合ったり支え合ったりする関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を引き出すように努めている。それが難しい場合には無理強いせずに表情から意向を読み取り、生活を支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を伺い、管理者と職員が皆で意見を出し合って、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しはもちろんのこと、介護計画の期間内に変化が生じた場合は、すぐに現状に応じて見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族が希望する場合は、事業所側で、通院の支援する等、家族・利用者の要望に対して柔軟に対応できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医、薬局を利用して頂いている。又、ホーム内に往診してくれる歯科医の利用もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ターミナルケアは行っていないが、重度化した場合は、本人、家族と十分に話し合いをして主治医の意見を基に今後の方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては、契約時に家族から同意してもらっている。本人の自尊心を尊重した言葉掛けや対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、本人のペースや体調、気分に合わせて生活出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事作りをしたり片づけをしている。季節の食材を使用して食事が楽しめるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めておらず、本人の希望や体調に応じて臨機応変に対応し、一週間に3回程度入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じて、梨狩りに出掛けたり、海岸の砂像見物に出掛けたりと、ホームに籠ることなく、楽しんだり、気晴らしができるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所に散歩に出掛けて、地区住民と気軽に挨拶を交わす等、自然な形の交流できている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室には、鍵はない。夜勤者が一人の時には玄関の施錠をするが、日中は玄関も自由に入ることができる。緊急時に備え、事務室やホールに職員が常におり見守りしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回の運営推進会議の際に、自治会の消防団員に、災害時の協力をお願いしている。年に2回、職員が災害を想定して避難誘導の訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量と一日の水分量を把握している。利用者の状態に応じて、個別に支援している。		摂取量のみならず、健康状態をつかむために、利用者の一日の大まかなカロリー量と塩分量について把握するように希望する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホール内には、畳の間とソファ、食卓があり、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるように工夫している。ホールの中央部には天窗が設置されており、青空が眺められる。季節感あふれる飾り付けを工夫している。		トイレの出入りはカーテンで仕切るようにしている。利用者が出入りし易い面もあるが、プライバシーの確保や尊厳の保持等を図るための工夫を期待する。また、臭い等がホール等に漏れる可能性も含めて、改善する事を期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた箆笥やベット等を持ち込んで貰い、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。		

※ は、重点項目。